

ルクセンブルク大公国 公使が中学校へ

EU各国の大使や外交官 60 人が全国の学校で、EUと母国について紹介を行う出前授業。ルクセンブルク大公国公使のマルティン・コマーさんは飯館中学校での授業を希望し、県内では唯一、川俣高校へやってきました。飯館中学校と川俣高校の生徒は体育館で、通訳を通して話に聞き入りました。

授業の終わりには、飯館中学校・生徒会長の西川茜衣梨さんが感謝の言葉を述べ、「EUの国々を身近に感じました。隣国ドイツへ研修に行った時には自然エネルギーについて学び、自然豊かな私たちの村でも同じことができるのではないかと考えています」とヨーロッパでの体験を紹介し、公使に花束を手渡しました。

▶スクリーンを使ってEUを解説



公使に花束を手渡す西川さん▲

幼稚園・小学校に空気清浄機が 贈られました

東京に本社を持つ商社・ガデリウスグループから、放射性セシウムなど、空気中の放射性物質を補集する「放射性物質補集用高機能空気清浄機」7台が寄贈され、幼稚園の仮設園舎と、小学校の仮設校舎に設置されました。

贈呈式は、ガデリウスグループ代表取締役社長のヨスタ・ティレフォーシュさんが出席して、仮設小学校の体育館で行われ、白石小学校6年生の佐藤琢真君が「空気清浄機の前を通り、新鮮な空気を胸一杯に吸う度に、たくさんの人たちの『がんばれ!』というエールを感じます」とお礼を述べました。



▲式に参加した6年生。設置された空気清浄機の前で

牧野純子さんらによるコンサート

ヴァイオリニストの牧野純子さん、ピアニストの北田了一さん、パーカッションの齋藤たかしさんが飯館中学校（川俣高校）を訪れ、全校生徒を前にコンサートを開いて、クラシックからジャズまでさまざまな曲を演奏しました。牧野さんのオリジナル曲「心の光」が演奏されると、美しいメロディーに涙をうかべる生徒の姿もありました。また、牧野さんから中学校へ、自身のCDとチャリティーコンサートで集められた義援金が贈られました。



▲生徒の目の前で生演奏

有害鳥獣捕獲隊編成会議



▲村内のイノシシ被害



▲南相馬警察署から関根隆行警部補が出席し、猟銃の管理について説明を行いました

飯野出張所の会議室で、平成24年度の有害鳥獣捕獲隊編成会議が開かれました。昨年度は震災のため活動を休止していた同隊ですが、今年度は、イノシシやサル被害が相次ぐ中、避難先から村内に通い、捕獲活動を再開することになりました。大幅に隊員が減少し11人体制となったため、会議では、パトロールの方法や回数についての見直しが行われました。役員改選では、阿部定宣さん(宮内)が留任で会長に任命されたほか各役員が選出され、隊員全員に委嘱状が交付されました。

相農飯館校でケーキ作りの 会が開かれました

福島大学行政政策学類の学生有志が作る「飯館校の生徒たちとの支援・交流の会」と、相馬農業高等学校飯館校の生徒18人が、「みんなでウキウキ ケーキ作り」の会を楽しみました。生徒たちは教室内で4つのグループに分かれ、スポンジケーキの台を、生クリームやフルーツでデコレーション。ケーキが仕上がるとグループごとに会食し、大学生らと交流しました。

「飯館の高校生のことが気になっていて今回初めて参加しました」という福島大学4年生の日向野宏美さんは栃木県鹿沼市の出身で、昨年鹿沼市の避難所でボランティアに携わっていたそうです。生徒から差し出されたケーキの味見をしながら、笑顔を交わして会話を楽しんでいました。



▲高校生と大学生、おしゃべりもはまします



▲器用な手つきで作業は順調に